

13  
2208  
24

野月夜頭晦録五篇卷之四

目錄

○陳和卿に命じて入宋の大船と造しむ

狩野行光和歌と添て馬と献図

由井が濱あり大船と造図

○禪師公曉鶴岡別當に補と実朝に轉任大江寛阿諫争

禪師公曉尼公へ即對面の図

星月夜五篇卷之四

伊豆山

子早ぬれつらんお山乃たま川  
るをさうの母もさきかきし 實朝

小倉山

まゝにけはるいさゝかゝるる  
まゝのまゝはるまゝのまゝ

大ゆき乃がまゝ海に旋ねる  
いふおれ人うまむねさきき

瀬見

小河

る河にやせんの小川にほろ  
しほろしほろわをさきさき

星月夜頭晦録五編卷之四

陳和卿に命じて入宋の大松を遣はす

實や人の才小立の電光朝露のどろ。さうも大身旧功の老臣のて。一  
族吾れ和田美盛由井の浦小敷を肆し。鎌倉に諸士別當司欠  
それ北条美時の計り。左衛門尉行親を此職小補せし。三浦  
美村一族に離訴出し。第一の功なり。美時の款待をす。新恩の  
地代増湯。都て腹心の相談相手と見負せり。他は用も満ちん。  
美時の末子九歳なり。御所小於て元服有。三浦加冠の泰実名。のま  
を。四郎政村と稱す。移易し。世の中を思はる。然るに當冬。改元  
り。建保とす。その年。暮明。同二甲戌年。清原公普請。出未。付  
小憩。容の。移。有。國家。皆。無。為。り。諸。士。堵。安。ん。萬。民。其。業。樂



嘗君実朝々賢明在在。今我輩を失て。其忠の諫言申忠臣  
 たり。大に廣くあれ。老衰多病也。出位も遠く。其時一旦和田の乱  
 懲た。今も今の録舎。心掛その者なら。竟小の尼も付さる。大  
 志と上君の近侍。武辺の志あり。事のあて外松へ出。尤右唯君のほ  
 心付。敵を獲。薄の小人の。心付。しむ。依て自ら武道の心。好うと。  
 元来。生得風流の才に長。トあり。朝より八重垣の。り。に。初瀬の花の  
 夕。あ。山の井の。あ。に。想を。編。あ。ひ。春。の。霞。の。内。よ。う。の。初瀬の花の  
 初瀬。晴。き。秋。の。芳。の。向。よ。更。科。姨。捨。の。月。の。影。に。浮。岩。れ。持。本。山。辺。乃  
 古。た。跡。を。尋。の。定。家。は。隆。の。新。す。朝。小。隠。ひ。あ。う。い。加。茂。長。明。小。は  
 文。成。ひ。て。変。鳥。の。古。事。以。同。と。或。の。心。依。を。定。家。々。の。件。小。遣。し。  
 慶。長。此。点。を。求。め。ひ。又。い。清。臣。の。心。詠。の。筆。の。短。冊。と。ど。り。れ。或。の。四。時

の。異。物。雪。月。花。に。花。の。あ。い。か。う。り。鎌。倉。清。長。の。敵。へ。七。渡。せ。あ。い。て。  
 和。歌。管。弦。れ。に。催。あり。夏。月。毎。二。三。度。小。及。外。松。乃。在。武。辺。の  
 面。の。い。齒。切。く。武。將。の。心。行。跡。を。情。弱。千。万。と。思。大。練。の。道。わ  
 絶。密。に。悔。斗。之。當。年。十。二。月。十。九。日。曉。く。雪。降。出。山。く。峯。く  
 向。妙。に。木。く。れ。指。の。喉。も。残。ら。ぬ。六。の。花。び。ら。銀。の。世。界。と。面。白。う。り  
 ち。れ。い。君。山。家。の。雪。の。糸。色。を。心。後。あ。つ。く。當。坐。の。心。催。あ。ら。ん。と。て  
 狩。野。民。於。太。捕。行。光。が。館。へ。は。駕。取。り。せ。ら。る。行。光。代。の。と。あ。れ。大  
 以。心。そ。く。種。く。心。地。を。と。り。奉。々。山。城。判。官。行。村。藏。人。々。ま  
 親。山。内。刑。ア。を。捕。縛。後。木。數。草。の。付。小。侯。ト。和。歌。の。心。遊。夜。ふ  
 づ。く。管。弦。の。心。真。夜。も。願。い。て。は。帰。館。あ。る。行。光。有。難。と。こ  
 ざ。り。と。く。奥。別。二。戸。より。出。驪。坂。狀。ト。り。る。が。夜。陰。の。あ。と。あ。へ



皇朝文獻通考卷之四



狩野行光  
和歌と  
添く  
馬を  
献る圓

皇朝文獻通考卷之四

此既に掌せられ翌日百まゆは境ある。驚小結付なるもの取せつて、三層と云ふ

あはれを分て公の君にあはれをまゝある物のおはれ、成るひく

君手返しは御吟あま。行光がむご、優しく思召し、しき感のたまに

自ら心遣ひ海られ返歌とびりやさる。

ゆゑと牽ちる。終の言をかば質れたるふかえれとぞおの

内藤右馬允知親政の使し。行光が修きされ、返しを成し、

色紙を取る三度項戴し。行光が家の室として寝ひしりや

るに又北条相模守長時のも又遠江守時政先年扱たり、職を

辞し。豆別小条に隠居ありしが、當冬俄に癱腫脊中に出来

痛を堪がせられ、内外の名医を集り、療治成迄とせしむ

老眸と云心身目々に疲瘦を踏小此持物の治法灸に燃し

割破て膿汁を除い、肌肉成生せしむ。ゆへ治を後人の間

壯年究竟の者ど。昔痛切なり、高壽の入道やれば名

医の奇術も寸効を得て、翌建保三乙亥の春正月六日卒去

り。行年七十八也。在鎌倉の請は君尼公の侍、後操を窺ひ

北条時が、能小君奉承して、悔成述北条一家の終、傷限を

せ。追福の骨を深切とせしむ。此入道は昔頼朝を鎌

倉草創の始、味方とあり。我女を嫁し、婿とす。頼軍心も

有。君家今三代に及び、武家の外祖とす。我子長時、執

権の職を續、一門莫榮。鎌倉小君成比のなり。先年

室家牧の方の好斗に与し。君成、海んと企て、妻、母路、

外戚の好身あり。大遷成、成れど、出家し、院内は、隠居あり

完天念候待々卒せしれい。古今希むる果敢人と云べし。殊に子孫九代後采いしれ也。附會の説を修す。前六箱根に住する時政法師法長経六十六部を書す。六十六箇の灵妙小奉納り。功力に依り。再生して時政と云。時政若冠たり。比に島に祭糸結せしが。安天の灵夢に遊ぶの事候告あひしと云り。おも小糸長時又の喪を終りし勅ありしが。あつたに云浦義村が舎弟九郎左衛門尉胤美が招采処に請ふ。談りて我先年和田義盛が密の物遣候はりしとあり。宋の陳和卿濼舎よ来り。君よ福也内。義盛是候信作。彼に止め。奪まはし。その和々美豊は倍々頼朝々上洛の節。百八んと候宣ふ

りれども。多く人の命候。眼業重候。將りれば。強て許退す。下り。洋獨候。遂に果して。推化の再延は。坐に也。合帝。て。三礼候。君の前生。大宋の湖。三育王山の。禪師。長老。我本國。呼り。仕する。值遇の縁。皆うべ。二世の対面を。遂なる有り。と云。候と流。た。究賢。必人。供り。あ。そ。迎。我を。信。む。こと。有。あ。れ。は。依。り。其。其。實。候。告。る。と。美。豊。は。隨。喜。感。涙。し。君。の。凡。さ。る。を。知。り。と。此。未。美。豊。と。不。快。さ。る。節。字。多。る。処。に。我。情。思。小。此。表。す。の。秘。隠。づ。ま。に。あ。ら。ん。却。て。君。の。心。以。て。是。は。因。縁。深。紅。を。知。あ。ら。ん。身。候。人。候。慈。あ。ら。の。道。う。ら。ん。

此辺折を双り、美夢をうそとて、はなはなと物語りや、  
然るべしと、世のこの世は、流義の美時の心、中流に  
左後の事、ひしや、作の、く、陳和々、驚く、美夢方に在り、  
も、結縁の、為、對面、及、い、君の、前生を、告、今日、始、  
兼、る、処、之、元、来、美、夢、教、懐、海、に、男、也、一、族、も、亦、  
是、い、何、さ、君、れ、の、為、と、思、不、処、心、に、在、れ、  
並、び、一、と、若、り、る、が、四、方、山、の、物、借、り、と、  
水、糸、以、依、を、十、含、る、い、海、に、思、不、  
あ、一、碎、か、り、て、  
邦、山、水、の、勝、地、日、本、の、豎、  
我、唱、画、畫、木、板、画、室、に、摸、写、一、法、坐、所、の、襖、障、  
是、

志、の、も、  
い、心、  
美、時、  
彼、  
事、  
前、  
是、  
榮、  
り、  
事、  
前、



時直にやらんうらま。一族より我くがやとて君の信用ありんとの  
 不問るる。早々やと然るを。とやと。亂美此よとて君は小侯ト  
 以振婦依何の。折節君も。瀟湘楓橋木の画似近臣に遠く  
 持し。あ。中。給。ん。ト。示。あ。り。り。る。あ。の。亂。美。や。と。り。り。る。君。の。あ。い。又。郊。の。山  
 水。を。好。む。あ。の。と。天。性。自。然。の。道。理。了。し。れ。知。り。し。れ。や。君。は。ま。に  
 我。彼。土。の。風。物。を。あ。ら。う。う。う。瓜。慕。ひ。親。く。其。地。を。遊。ん。と。あ。の。か。切。あ。れ  
 ども。是。甚。く。危。患。と。性。寂。靜。く。然。止。り。我。も。何。の。故。や。遠。小。至  
 や。如。は。と。宣。の。亂。美。近。奇。然。く。い。物。清。く。し。と。し。ら。ん。と。陳。和。々。が  
 中。で。初。級。一。族。美。盛。存。生。の。間。密。不。決。す。い。と。く。ら。の。演。説。一  
 あ。れ。が。君。に。然。り。酒。の。酔。も。あ。ら。う。あ。の。た。あ。り。や。と。て。ほ。の。感  
 公。は。も。美。盛。今。追。我。も。や。は。さ。う。う。と。然。る。れ。と。作。り。り。亂。美。の。以。手

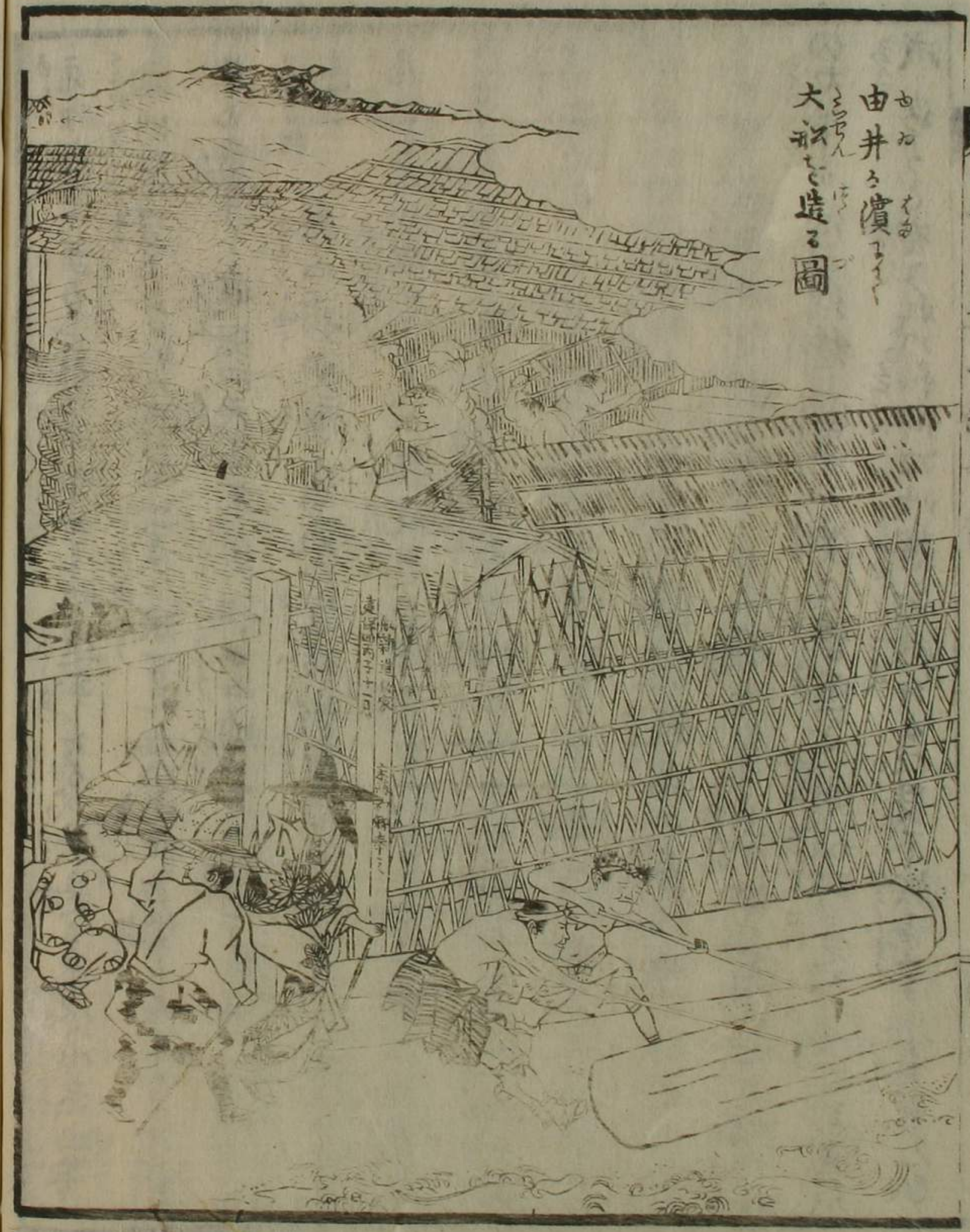
元は有り画ると評以作付られ返す。君是も。付。心。志。感。下  
 勤。因。縁。等。と。さ。れ。は。是。非。一。度。入。宋。せ。ん。と。以。内。心。を。交。へ。あ。め。と。や。を。の  
 羊。も。暮。く。建。保。四。丙。子。年。其。朝。々。中。納。言。に。任。ぜ。れ。是。より。蜀。建。曆。二。年  
 二。位。は。叙。一。左。中。納。言。補。一。あ。の。官。位。先。考。も。起。り。昇。進。し。あ。の。い  
 尾。公。も。以。悦。限。せ。り。以。税。彼。是。以。事。ま。た。あ。い。ま。と。君。の。言。作。出  
 さ。う。う。事。も。た。う。に。崇。高。く。小。条。美。時。を。初。老。長。一。作。の。あ。の。宋。の。陳。和。々  
 京都に存し。百。あ。べ。の。旨。余。せ。れ。り。あ。の。京。於。守。僕。人。一。其。辰。申  
 達。さ。る。然。に。陳。和。々。の。小。侯。一。十。月。に。鎌。倉。小。着。氏。時。に。君。より。作。出  
 さ。る。も。我。大。叔。を。新。造。せ。め。ん。と。欲。せ。れ。た。日。本。の。ま。ご。れ。た。は。二。巧  
 の。力。送。ま。た。は。と。成。意。入。由。井。が。漢。に。番。匠。を。集。和。御。是。を。司。て。其。妻。成  
 成。し。め。う。と。有。り。れ。ば。和。御。に。此。藝。を。傳。へ。る。に。畏。く。成。さ。し。一。其。言。に。及。び



大坂新造家

大坂新造家

大坂新造家



由井の濱  
大坂新造家  
大坂新造家

大坂新造家

ありん愚僧日本にまゝ。元生海度の志あり然るに今大和の造作  
 起し。債を竟ん。救月及び。何ぞ久しく東國小止。番匠の  
 麾を振んや。礼大君召命。あめ如も重りれ。良材を集めその  
 才尺の度。定ぬ。列に離敷。一釜を造る。救百の工。匠小能。一  
 ぶ。規矩準繩。を附屬せん。六月救を歴く。成功完り。く。との  
 心善の。有君く。中より。れ。むの。事。思召。其意に。任れ。是。是。能て  
 遠列。列信。列の。雨。く。大和。代。出。由井。が。淡小。普情。の小。屋。を  
 掛。諸。國。より。大。大。を。召。あ。て。打。ま。る。後。小。甚。結。持。頭。大。造。小。使。  
 あり。陳。和。を。離。敷。一。尺。造。曲。尺。の。法。を。示。大。番。匠。五。六。軍。一。より。く  
 其事。成。程。一。噸。後。も。帰。言。が。此。陳。和。卿。の。佛。工。も。て。あ。じ。が  
 學。智。碩。徳。も。能。法。法。說。先。年。東。大。寺。の。大。佛。を。造。立。り。も

此陳和々之君入宋の思。百史。吳邦の人の指揮。一。船。以。造。あり。  
 又。内。の。所。存。の。音。仲。出。され。扈。從。の。面。も。六。十。餘。輩。と。定。あり。也。  
 ぞ。唯。尼。公。の。以。支。あ。ん。ん。以。氣。き。れ。前。扉。の。沙。汰。が。く。あ。障。は。直。  
 萬。事。の。用。意。調。の。一。の。存。に。あ。る。急。ふ。由。井。が。淡。く。う。の。出。の。催。  
 び。京。都。に。船。成。就。の。一。奏。中。が。べ。の。の。事。彼。是。於。て。表。向。  
 の。評。倭。の。あ。り。ん。大。に。唐。元。苦。く。ま。ま。に。思。れ。和。田。茂。忠。世。  
 に。在。り。白。美。の。あ。り。ん。類。に。旧。友。を。あ。の。涙。よ。れ。我。今。も。其。諫。  
 せん。が。彼。の。あ。り。ん。の。所。不。同。か。右。大。將。の。あ。り。ん。も。大。敵。の。ま。た。滅。亡。  
 あり。ん。代。官。の。一。の。舍。身。取。向。の。一。の。鎌。倉。を。離。あ。の。代。君。の。あ。り。ん。公。  
 達。も。在。る。に。遠。く。吳。域。の。渡。海。あ。り。ん。事。武。將。の。行。小。の。代。殊。又。  
 尼。公。も。高。年。に。あ。り。ん。辛。勞。の。あ。り。ん。匹。夫。下。郎。と。ら。た。又。母。報。捨。て

遠く北のまの女居のち人の澄たるも身取めく。不孝の玉本成出  
 めんて道ふけむ。此度の思ふまじき。心を用然べくゆわんと言は者  
 儼言口れ。君仰りたる其えの申条を至極せり。えま我是と  
 知ざるいむ。ばされども中深く思ふ外有り。此度の催に及ぶ  
 大老の初も又脊がく。知終る思ふもの。追て相儀と。とす。あぞ  
 唐元偏ふ。ゆめあらん。花顔好まゆ。く。返りて。充角。心。逆た  
 まる。心。空。ま。あ。る。唐元。も。是。我。凍。い。さ。ひ。て。面。倒。り。あ。り  
 け。清。有。体。に。其。期。に。及。後。思。召。に。任。さ。り。の。あ。る。若。し。ん  
 り。尼。公。の。世。と。と。し。を。理。に。止。め。せ。ん。と。思。悟。其。後。の。あ。る  
 頼。め。く。打。こ。ら。れ。り。

禪師公曉鶴岡別當に補實綱々特任大江足阿棟筆

建保五丁丑年正月君自ら由井の傍に坐す。大船の遺作を以て  
 あり。旧。備。く。も。救。人。の。番。通。致。無。て。成。功。成。願。し。む。れ。た。後。禱。願  
 大。造。也。其。形。之。外。離。形。成。中。路。有。て。此。度。打。ま。如。の。間。救。を  
 身。を。せ。め。め。の。其。事。と。管。地。の。有。司。大。教。を。以。て。言。め。及。の。如。君。仰  
 り。つ。い。ま。ま。の。い。つ。も。予。が。ら。必。く。是。れ。其。間。坐。横。坐。と。り。と。有。あ。  
 猶。又。四。言。に。及。り。る。具。則。陳。和。々。が。命。し。處。必。も。規。矩。小。善。人  
 規。矩。小。善。人。君。又。作。り。て。規。矩。小。慣。て。大。く。せ。ん。よ。い。の。後  
 たり。何。を。先。回。致。致。規。定。と。き。巨。海。を。渡。り。大。船。も。大。小  
 あり。然。ど。も。大。小。規。矩。の。等。り。ふ。程。を。登。一。絲。の。仙。魁。と。作。ら  
 ん。に。ま。る。の。仙。も。一。夫。の。仙。も。大。小。の。欲。さ。る。如。く。後。い。曲。尺。の。規。矩。の  
 一。毫。も。な。し。母。も。如。の。所。謂。柱。小。膠。と。の。説。と。以。不。自。を。承

りや思入て畏然と望横の間殺を割廣十分の二を方々のむ  
 ぞ。荒木取の内蔵大小の今自在のめと大勢其の事以中合  
 了造しめり。同年四月に今遊成就せり。此有君と  
 りれ。大の祝喜のり。同月十七日狩民效を捕行先使と  
 殺百人まで卒了。大船由井の浦に引浮く。海を挽り  
 りれ。水中に浸る多に浮く。午の刻申の刻。及て人より助力  
 をせ。曳やくとせり。れども此浦元未渡宋の船を浮べ  
 り。況や望横の間殺。船場を。唐汀沙小船て。修も守も  
 あり。君は。成り。あつんと。心出。あじに。後。再興。是て。作。法。内。結  
 たり。り。が。重。く。陳。和。々。一。作。を。ま。い。海。が。洲。を。必。死。の。間。殺。願。意。不  
 不。豆。の。十。分。の。二。と。廣。く。を。獲。り。に。船。浮。を。事。今。は。破。壊。し。は。り。

製に後り。能。浮。ん。や。否。と。此。事。京。都。の。守。護。を。相。尋。和。々。の。事。を  
 中。と。く。り。君。大。船。を。造。し。め。め。何。の。用。を。双。船。知。れ。由。井。の  
 深。み。て。打。ま。べ。と。高。余。眉。上。り。由。井。の。浦。に。浮。く。必。死。其。凌。其  
 浦。に。急。せ。る。船。打。ま。る。を。陸。地。を。曳。べ。小。船。は。何。も。せん。是。侯。に  
 規。矩。に。由。井。の。深。み。浮。り。ん。猶。々。茶。里。の。彼。壽。ハ。海。に  
 思。ふ。目。君。は。夜。に。僧。又。司。も。大。船。新。造。せ。れ。た。事。の。事。  
 思。ふ。所。々。処。有。由。と。思。ふ。所。々。れ。が。疾。け。事。を。止。め。ま。ら。ん。と。存。れ。た。  
 此。より。切。る。こと。止。ぐ。死。を。知。り。そ。毛。に。及。り。彼。船。由。井。の。浦。に  
 浮。く。も。兼。て。思。ふ。所。々。の。用。に。先。べ。り。ん。と。ぞ。ヤ。紙。り。君。は。一。石  
 陳。和。ん。が。答。え。る。人。と。感。ず。め。の。陸。地。遙。く。上。方。に。向。ひ。ま。す。海  
 中。ん。ま。第。一。大。内。を。直。通。す。成。ま。す。天。子。に。請。せ。ん。高。徒。七。十

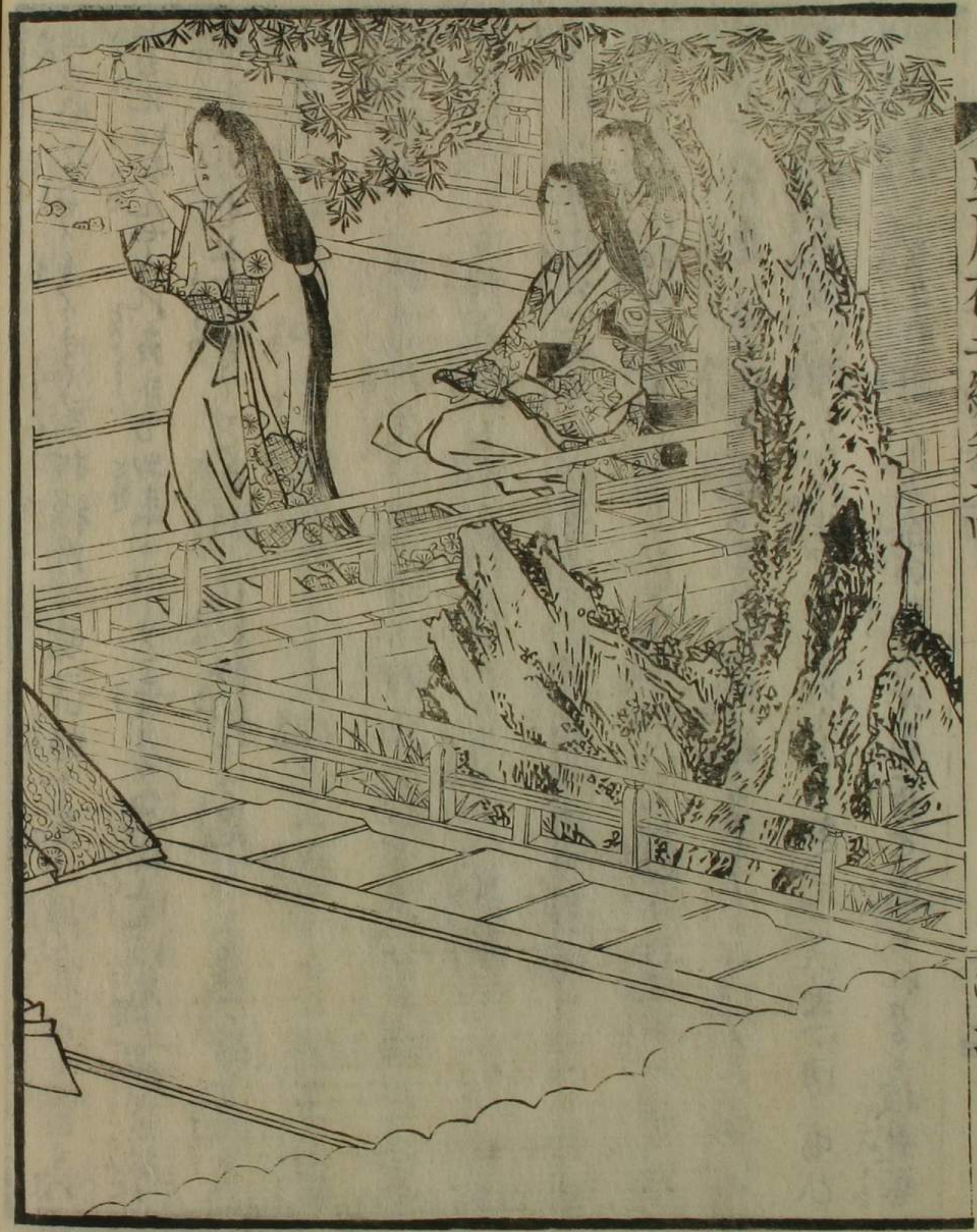
余輩より海は彼是の思を以て容易の事なり。日之北あり。入木の事。伏思止まぬ。彼大和。莫太の拘へ。上座。後子海。傍ふ打換。とり。小糸。時思。入。流。民。に。人。君。の。思。を。感。動。せ。り。修。身。も。て。成。げ。れ。ば。二。つ。の。味。牛。代。思。棄。し。志。伏。逆。ん。と。人。の。前。の。武。將。頼。家。の。息。善。哉。九。と。ナ。デ。は。山。を。猛。く。カ。キ。有。と。又。賢。く。ち。ら。り。ら。る。頼。家。の。生。害。の。後。狐。と。成。め。ぬ。尼。公。の。死。か。つ。れ。一。旦。鶴。岡。別。當。の。身。子。と。な。れ。が。以。氣。也。の。傳。実。納。々。の。思。入。近。市。の。猶。子。の。思。由。法。不。及。ん。と。人。和。田。我。輩。法。々。と。伏。頼。家。々。の。生。害。の。物。並。小。子。善。哉。君。と。傳。家。督。と。定。め。ら。ん。何。の。子。細。く。い。て。一。旦。実。納。々。と。武。將。と。定。れ。ら。れ。し。と。実。知。々。小。若。君。在。い。り。伏。伏。債。あ。ん。松。村。の。善。哉。君。も。正。しく。ち。幕。下。

君。嫡。傳。の。出。孫。と。れ。ば。我。武。將。子。ゆ。ら。ん。と。せ。れ。ん。小。若。君。初。死。の。世。に。殊。小。善。哉。君。の。生。生。今。より。武。將。の。思。を。承。け。り。早く。山。出。た。り。と。遠。け。ぬ。所。へ。近。き。武。將。の。後。遺。産。を。承。け。と。承。け。た。志。を。承。け。道。取。の。ゆ。と。重。ひ。た。れ。た。文。に。以。信。用。あり。出。所。の。一。の。信。行。着。お。の。式。あり。と。若。君。の。思。猶。子。と。と。作。り。し。れ。が。後。に。尼。公。も。思。ひ。合。は。せ。り。事。の。ま。じ。に。松。村。に。せ。り。と。作。り。し。此。所。又。我。輩。と。成。て。い。り。出。た。り。と。逆。に。松。村。に。遠。け。京。都。に。き。り。肉。を。系。統。の。守。護。人。に。公。射。さ。せ。あ。い。わ。り。く。安。堵。も。成。る。に。か。ね。が。知。る。意。の。發。し。め。武。將。の。以。知。に。重。く。思。を。催。し。名。將。子。と。定。め。あ。ひ。つ。て。俄。に。出。た。せ。り。あ。め。何。ぞ。本。公。の。名。に。あ。ん。松。村。我。輩。を。使。し。用。め。ら。れ。ば。い。は。れ。と。く。廣。元。に。密。使。し。し。使。を。し。せ。る。也。尼。公。柳。納。得。あ。り。判。鑿。の。と。

三十三

小彼村のありて、上洛ちの回城、奇明王院、僧正公胤の方に在て、禪師  
 公曉と号を以、延生の折柄を、三浦、茂村が妻女の乳味を、三月五  
 のひのち、茂村夫婦、我子の思ひを、胎を、只、負け、公と和  
 田の兎角、公曉の松子、後、君家の害ならん、天下の勅、乳の替が  
 幸いと、密に先ひ、ちらん、斗、茂に及の、茂村、不承知の、是、事、洞、伏  
 茂村、和田が、怪、多、れ、を、怒、て、不、仕、と、ら、り、り、と、之、三、重、無、に、と、り、小、久、木、茂、時  
 二度、三、浦、茂、村、に、や、ら、り、の、行、所、公、曉、今、後、の、子、又、も、長、あ、り、和、田  
 茂、中、之、毎、度、公、を、り、の、甚、ら、り、の、鎌、倉、君、の、地、丁、を、恋、し、思、ひ、れ、た、り、  
 古、を、と、離、在、の、便、う、れ、と、ぞ、尼、口、の、願、方、を、驚、か、さ、す、さ、邊、山、の、  
 ち、の、り、人、あ、り、ち、う、ち、や、ら、り、れ、と、と、す、み、り、れ、が、茂、村、ち、小、怪、ひ、物、権、の、水、分、  
 心、か、之、も、兼、く、願、在、知、く、と、妻、女、も、ち、の、り、れ、が、際、に、飲、疾、く、仰、

上、れ、と、せ、り、ま、り、ま、り、茂、村、禪、師、公、曉、一、は、越、す、每、會、早、向、あ、り、  
 當、地、に、在、ん、ち、う、れ、久、斗、も、出、来、や、べ、と、告、り、り、の、公、曉、は、先、米、尼、公、の、作、  
 止、と、成、り、ど、上、京、者、と、公、曉、の、成、成、り、を、思、ふ、く、は、消息、を、  
 こそ、作、上、ら、り、く、そ、願、成、れ、や、さ、ん、條、々、の、願、を、く、こ、そ、の、學、文、登、  
 夜、出、候、い、う、佛、道、行、文、の、意、味、も、柳、女、の、事、由、一、度、鎌、倉、向、ひ、  
 は、裁、断、も、も、伺、武、お、も、そ、願、を、得、又、い、歸、京、仕、度、願、に、公、曉、と、知、  
 願、成、され、尼、公、に、此、公、儀、申、上、り、落、後、の、あ、ひ、茂、時、を、召、さ、り、お、後、  
 方、り、る、小、分、に、お、て、の、湯、屋、ま、り、と、ら、り、下、向、の、と、中、松、子、は、早、速、歸、洛、  
 ち、の、あ、の、大、先、一、旦、お、就、て、遂、さ、ら、れ、中、松、子、も、ま、り、ま、り、さ、り、鶴、岡、  
 若、宮、の、別、當、職、に、補、せ、ら、れ、後、の、べ、り、ら、ん、と、や、也、尼、公、は、小、同、の、あ、ひ、  
 早、速、歸、洛、を、ま、り、れ、兼、く、上、洛、の、節、も、小、松、子、を、送、ら、れ、る、が、彼、是、皆、



星月夜五續卷之四

星月夜五續卷之四



此世して六月十五日藤倉み着あふ先武伯の対面の後尼公の対面  
 あふ城に多くうく対面尼公も飲さるる奔走の人の曉より  
 戈智賢の生質あふ。其拜甚殊勝らう。徑端の有非き上るごと  
 演あふ。尼公別して多く思され武將の事方へも初ちう。同日竟小  
 祿師公曉と鶴岡若宮の別當職に補せられり。されども若草車  
 に依て備中所園梨を後見と定あふ。公曉大に悦喜み。佛法  
 怠り。萬事公と配て勤あふ。三浦美村の折節訊きて親り。  
 當年も暮明も。同六月戊寅年正月。武伯推大納言に任。同六月  
 先大將成兼あふ。同年尼公の上洛あつ。其次小紀別熊野系信  
 一あんと小条時房を召連られ。狩り南山順禮のち。叙進上京下  
 出あふ。小仙洞の勅書て尼公基政子と。後三佐に叙せらる。き。宣下

有凡出家叙位の事。予削道鏡の外。先規り。女の叙位。於て。

安徳天皇の外祖母二位の禪尼と初ら。其例は。一あふ。外は。

小仙洞。尼公。妻。小対面。有。き。有。作。と。れ。り。也。初。ま。あ。る。東

辺鄙の老尼の身。予。事。龍顔。小。咫。尺。一。ま。ら。ん。頭。將。と。存。也。

唯。備。寺。礼。仏。の。志。を。遂。げ。り。ん。と。妙。房。を。叙。漢。院。せ。り。也。

唯。あ。ひ。り。り。大。江。大。橋。を。交。廣。元。朝。長。病。氣。に。依。て。終。を。入。尼

也。法。行。成。ん。阿。と。を。号。し。る。身。を。肢。慢。せ。り。也。眼。精。暗

して。黒。由。を。引。引。れ。り。引。引。れ。り。今。年。十。月。君。因。大。臣。

任。下。元。の。如。く。先。大。將。を。兼。あ。ふ。此。と。兄。執。權。美。所。を。陸。奥。守。時。房。を

相。摸。守。に。任。其。外。鎌。倉。の。備。士。に。任。官。除。ま。り。り。廣。元。入。道

也。同。引。引。れ。り。在。る。が。改。く。は。牙。に。糸。ド。や。と。れ。り。先。考。右

星月夜頭略五編卷之四

大将家より官位宣下の旨にてもおのゝけ友位を致すと宣加忍  
一と宣ひ再三辞して後み受あつて君も先考の以て送法を頼家  
々に授けぬのさうさう。さうさう勤切もさうさうに法園の管領職なま  
らふの由もさうさう。まゝ納言大臣の高爵を補せられぬままで。一度の  
辞退も及ぶらん臣も己を三里で職を受ともしつてこの由も後長文  
の末も美聖三代の君に志勤功勞を以て。一吏の全くと上総の  
西司をさうさう。右幕下の西司の憲法めさ。務難一と皆を免せぬ。  
美聖己よとと不らして止めし事いさ存のふみも君の由高官は。  
規模大くしやと大。攝家関白の由息に替り佳運子も後流に侍  
が。めいひの短命。めいひの不さぬの綱あつて。却て由島にさうさう。  
美い由も孫長久を思ふさうさう。美官を辞し武將の一職もさうは。

高年タカトシの後ノチあり。つらも公々の大職オホシメも受ぬと。陳チンヤされさう小君コキミ  
作アサヒら入道ニリチの洞アノ練レンを其ソノゆゑと。然シカるに時代トキ不遇フキウの屋ヤに官達クワンタクを  
さしけ。今イマ我ワガ妙ミウ法ポフも。源ゲン家の正統テイチュウを後継コキ君ミコの由とさう。  
源進ゲンシンの任マカせもせん。つらのもうさう。名譽ナヨ後代コト小貽コトさ  
むやとて。由承ユケ引ヒキさうさう。れが。唐オウを入道ニリチ是派シハさう。近チカイ出デせられさう。  
今イマサ時トキめぬあゆ。却シテ累卵ライランの危アヤシ遠トホうさう。我ワガ長命チヤウメイありて。兼倉ケンクラウの  
廢イヘ亡ワウを。つらんさう。公若コニカガハクさう。独ドク慈ジ悲ヒさう。且ナつとさう。

星月夜頭略五編卷之四 終

